

## ショウロの胞子液と木炭散布の方法

ショウロを確実に発生させるには木炭を散布して、胞子液を散布すると良い。  
胞子液散布法は伊藤さんからのアドバイスによるもので、木炭埋設法は各県で行われたショウロに関する実証試験結果を参考にしました。

### 胞子液散布法（１）

- 1 子実体は老熟したものがよろしい。腐りかけていても良い。若いもの（硬くて中が白いもの）は駄目。これを水道水でよく洗う。砂や泥を取り除く。
- 2 大きいものは半分に切る。
- 3 子実体 100 g に対して、蒸留水または無菌水 500 c c を加え、家庭用のミキサーに約 90 秒間かける。
- 4 これで胞子液約 600 c c ができる。
- 5 顕微鏡（400倍）で検鏡して、視野の 80% 以上胞子が占めておれば 1 c c 当たり億単位の胞子密度である。60% 程度ならば 1 千万単位となる。正確には血球計数板を用いて計数する。
- 6 3ヶ月程度の保存は 5℃ 冷蔵庫で可能。6ヶ月以上の保存には酸化防止剤、安定剤等使用する。
- 7 現地で散布する場合は、原液濃度の応じて 1 c c 当たり 50～100 万個となるよう水道水で薄めて使用する。億単位の密度であれば 100～200 倍に希釈することになる。
- 8 散布時期は低温期。

### 胞子液散布法（２）

○炭を入れた場所に、胞子液を散布

熟した松露を 400 グラム、水 1000 グラム、ミキサーで粉碎する。できた胞子液を 10 リットルの水で希釈して散布。

○内部がオリーブ色になった松露を 70 グラムをホモジナイズし、水道水 10 リットルを加えて散布。

○完熟している松露 20～30 個に清浄な水 1～2 リットルを加え、ミキサーで碎き濃厚液を作る。これを水で 2～3 倍に希釈して散布。

○松露をつぶして、水に懸濁したものをクロマツの根元に散布

## 木炭散布法

- 幅 30cm、深さ 20cm の溝を松の列の間に掘り、厚さ 10～15cm に炭を埋め、表面はきれいな砂で埋め戻す。
- スポット状に埋めても良い。
- 松露が発生している場所の前方に深さ 40cm、幅 30cm の穴を掘り、1%程度の木炭の粉をまぜた、有機物が含まれていないきれいな砂で埋め戻す
- 地表面の松葉等腐植層を除き、中央部に幅 30cm、深さ 15cm の溝を掘り、10cm の厚さに炭を敷いた。
- 1 平方 m 当たり、50 グラム程度表面に散布。
- 100 平方 m に 580kg の炭（乾燥した炭は 350kg）、幅 80cm、深さ 5cm 炭の厚さ 1cm。  
 $0.01\text{m} \times 22\text{m} \times 6 = 1.32$  立方 m
- まとめると、幅 30cm、深さ 10～20cm、炭の厚さ 5～15cm 程度が良い。

